

平成30年度日本小児外科学会  
第6回定例理事会議事録

日 時：平成 31 年 3 月 1 日（金） 11：00～16：00

会 場：大阪大学東京オフィス

出席者：越永従道（理事長）、田尻達郎（副理事長）、八木 實（理事・会長）、奥山宏臣、廣部誠一、臼井規朗、金森 豊、野田卓男（以上理事）、猪股裕紀洋、仁尾正記（以上監事）、藤野明浩（庶務委員長）、渡井 有（財務会計委員長）、菱木知郎（庶務副委員長）、上原秀一郎（財務会計副委員長）、橋詰直樹（庶務委員補佐）、浦尾正彦（財務会計補佐）、窪田正幸（前会長）、松藤 凡（前秋季シンポジウム会長）、佐々木英之（データベース委員会委員長）、中岡達雄（教育委員会委員長）、米田光宏（施設認定委員会委員長）、小野 滋（専門医認定委員会委員長）、古村 眞（専門医制度庶務委員会委員長）、宮野 剛（第 57 回学術集会事務局）、村上 聡、仁田尾慶太（以上事務局）  
欠席者：山高篤行（理事・副会長）、黒田達夫（前理事長）、米倉竹夫（秋季シンポジウム会長、利益相反委員会委員長）

議事に先立ち、先般逝去された高橋英世名誉会員に哀悼の意を表し、全員で黙祷した。

議事案件：

議 事：

1. 第6回定例理事会の議事録署名人は、廣部誠一理事、金森 豊理事とした。
2. 平成30年度第5回定例理事会議事録につき、事前配信された内容について確認され、修正点等あれば1週間を目途に事務局に連絡することとした。
3. 審議事項
  - 1) 第 55 回学術集会について（窪田前会長）

窪田前会長より資料に基づき、第 55 回学術集会会計報告がなされ、承認された。
  - 2) 第 56 回学術集会について（八木会長、橋詰庶務委員補佐）

八木会長および橋詰庶務委員補佐より資料に基づき、準備状況が報告提案され、承認された。

    - （1）演題採用状況について報告された。
    - （2）事前参加登録を採用した。
    - （3）委員会日程が決定した（時間帯と、総会の時間帯に入っていた委員会を一部修正）。
    - （4）演題登録システムで文字化けが起きた（要改修）。
    - （5）座長が決定した。
  - 3) 第 57 回学術集会について（宮野第 57 回学術集会事務局）

宮野第57回学術集会事務局より資料に基づき、会場レイアウトやプログラム、スケジュ

ールが提案され、承認された。また、抄録アプリについては継続して使用することが承認された。

日時：令和2年5月21日（木）、22日（金）、23日（土）

会場：都市センターホテル

4) 第34回秋季シンポジウムについて（松藤前秋季シンポジウム会長）

松藤前秋季シンポジウム会長より資料に基づき、会計報告がなされ、承認された。

5) 第37回秋季シンポジウムについて（越永理事長）

越永理事長より資料に基づき、昨年10月に開催された秋季シンポジウム委員会の議事録の内容が確認され、第37回秋季シンポジウムのテーマは「小児外科疾患に対する再生医療・細胞療法研究と応用」（小児外科疾患に対する再生医療・細胞療法研究と臨床応用の現況と未来について討論する）、会長に金森豊先生（国立成育医療研究センター）が決定したことが報告された。

6) 庶務委員会審議事項（藤野庶務委員長）

藤野委員長より資料に基づき、NPO から一般社団法人への移行に伴う評議員会/社員総会開催の方針が確認され、司法書士にも運用方法を確認した所、一般社団法人とNPO とで評議員会を別々に開催する必要はないこと、評議員会はシナリオを工夫して運用し、NPO の総会は2日目の朝の時間帯にNPO が解散するまでは開催することが確認され、承認された。

7) 財務会計委員会審議事項（浦尾補佐）

浦尾補佐より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

8) 各種委員会審議事項

(1) 機関誌委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より資料に基づき、以下の点について報告・提案があり、承認された。

- ・優秀論文の選定について、原著論文は以下の論文が選定され、承認された。

梶屋隆太、他：胆道閉鎖症葛西手術術後患者における 自己肝生存率に対する予後因子の検討（鹿児島大学小児外科）

また、症例報告に関しては、以下の論文が選定され、承認された。

内藤 千絵、他：小胃症，食道裂孔ヘルニアを合併した無脾症候群に Hunt-Lawrence pouch が有用であった1例（静岡こども病院小児外科）

- ・「代表連絡先/Correspondence to」の表記について

現在、雑誌へ掲載する際日本語では「代表者連絡先」、英語では「Correspondence to」として、名前・住所・所属を掲載しているが、これでは誰が指導教授（責任著者）であるかが分かり難い（勘違いする）、という著者からの指摘があった。

現行では、Correspondence to の訳に関して、「代表者連絡先」では著者をさすのか、論文作成を指導した上級医（部長や教授など）を指すのかはっきりせず、論文にもいずれを掲載するか明確になっていない。

編集の都合上、著者の連絡先が必要だが、最近ほとんど電子メールでのやり取りであるので、著者の住所は必要ない。

業績に関わってくる問題なので、「Corresponding author＝責任著者（指導した上級医）」ということに統一し、著者にはメールアドレスのみを問い合わせ、施設の住所は責任著者のものを問い合わせる方針とし、投稿規定の改定案が提案され、承認された。

- ・用語について、著者から、「鎖肛」と「直腸肛門奇形」をどちらかに統一する必要はないのか？という問い合わせがあり、「人工肛門」という言葉は、患者側からみて適切な用語ではないので、「ストーマ」という表現を用いた方が良いのでは？などの指摘があったが、現在日本医学会で用語については検討している所なので、結論を待つこととした。
- ・キーワードに関して、英文抄録と和文抄録のキーワードが一致していないことがあるため、今後は一致させるように査読の段階で出来るだけチェックすることになった。また、最終号に掲載されている索引に関しては、インターネットの普及によりほとんど活用されていないと思われ、費用と労力の削減のため、掲載しない方向ではどうかと提案があり、承認された。

(2) 国際・広報委員会（越永担当理事）

越永担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(3) 保険診療委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(4) 教育委員会（中岡委員長）

中岡委員長より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(5) 悪性腫瘍委員会（田尻担当理事）

田尻担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(6) 学術・先進医療検討委員会（臼井担当理事）

臼井担当理事より資料に基づき、以下の点について報告・提案があり、承認された。

- ・学会 HP の「小児外科で治療する病気」の改訂について、2月26日の時点で、9割の原稿が集まっており、3月中に、改訂原稿が完成する予定である。

写真を提示しにくい症例では、イラストをプロに描いていただいた方がよく、前回は1枚3,000円程度であり、最大でも20枚程度で6万円の費用が掛かる見込みであ

る。

- ・AMED「小児医薬品の実用化に資するレギュラトリーサイエンス研究」に内田恵一委員長が出席したが、PMDAとの面談・交渉や、新規医療機器の早期導入などについての担当委員会（学術・先進医療検討委員会か保険診療委員会か）が現時点では決まっていないため、今後も困る事態が予想されると報告があった。今後の運用については、今まで通り理事長判断で担当委員会を決めていくことが確認された。

(7) 倫理・安全管理委員会（野田担当理事）

野田担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(8) データベース委員会（佐々木委員長）

佐々木委員長より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(9) 小児救急検討委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(10) トランジション検討委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(11) ワークライフバランス検討委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より資料に基づき、以下の点について報告・提案があり、承認された。

- ・女性評議員委嘱について、今回の評議員選挙の当選者 315 名の 10% の 31 人の女性評議員を目標とした。女性会員 45 名立候補、26 名が当選、5 人を委嘱評議員とする。理事会で落選者の中から、委員会活動歴、指導医の有無、会員歴を考慮し、5 名が委嘱された。
- ・第 56 回日本小児外科学会学術集会における本委員会企画案として、会員に対する事前アンケートを元にディスカッションを行う予定であると報告があり、以下のアンケート内容を会員に対して行うことが提案され、承認された。

アンケート内容

Q.短期的にどうすれば QOL があがると思いますか？

Q.小児外科医の働き方について、言いたいことを言ってください

Q.今の環境で優先したいものはなんですか？（経験症例、業績、収入、プライベートの確保）

Q.自分の立場で今後必要なものはなんですか？（経験症例、業績、収入、プライベートの確保）

Q.理想的な小児外科医の人生とはどのようなものですか？

Q.理想的な小児外科医人生を考えると、現在何が足りないですか？

Q.小児外科医にとって最も大切なものはなんですか？

(12) 規約委員会（金森担当理事）

金森担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(13) 研究倫理委員会（野田担当理事）

野田担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(14) NCD連絡委員会（臼井担当理事）

臼井担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(15) ガイドライン委員会（金森担当理事）

金森担当理事より資料に基づき、以下の点について報告・提案があり、承認された。  
・来年度に学会主導のガイドラインをまずは1つ作成することを目標に活動を続ける。

9) 選挙管理委員会審議事項（藤野委員長）

藤野委員長より資、以下の通り報告・提案され、承認された。

- ・12月25日に第3回選挙管理委員会を開催、選挙管理委員会立会いのもと開票を行った。
- ・有権者数1,974名、投票総数1,765票、有効投票数1,765票となり、開票結果は当選者315名、落選者53名となった。

10) 名誉会員・特別会員推戴について（越永理事長）

審議の結果、以下の6名を本年度推戴候補者として内諾を確認の後、評議員会に諮ることとした。

名誉会員推戴候補者：猪股 裕紀洋先生

名誉会員推戴候補者：上野 滋先生

名誉会員推戴候補者：岩中 督先生

特別会員推戴候補者：八木 誠先生

特別会員推戴候補者：吉田 英生先生

特別会員推戴候補者：飯田 則利先生

11) 外科学会からの提案（学術集会のありかた）について（越永理事長）

越永理事長より資料に基づき、12月27日にサブスペシャルティ学会の理事長同士の意見交換の場が持たれ、日本外科学会からは会員数の減少、参加者数の減少が懸念されており、日本消化器関連学会週間のように、日本外科学会と各サブスペシャルティ学会が一堂に会する”Sugical Week”を開催してはどうかと提案があったと報告された。本理事会でも意見交換がされ、本会の学術集会や秋季シンポジウムをくっつけることは難しいこと、小児外科関連の研究会を同時期に開催することはどうだろうか提案していただくこと

となった。

12) 日本小児期外科系関連学会協議会役員交代について（越永理事長）

越永理事長より資料に基づき、日本小児期外科系関連学会協議会の役員が変更になったと報告がされた。この団体には本会から年会費を1万円計上しているが、役員選出方法等が不明瞭なため、次回理事会で田口評議員（日本小児期外科系関連学会協議会会長）を招聘し、説明を求めることとした。

4. 報告事項

1) 専門医制度委員会報告（米田施設認定委員会委員長、小野専門医認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員長、村上事務局）

米田施設認定委員会委員長、小野専門医認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員長、村上事務局より資料に基づき、以下の点について報告があり、了承された。

- ・施設認定と年次報告締切告知について、現在認定している認定施設・教育関連施設の全施設から申請書を提出してもらうこと、申請期限を5月31日と設定したと報告された。今までは3月31日までの締め切りでNCD確定後に再度申請ボタンをクリックしてもらっていたが、1回に集約される。
- ・専門医や指導医の個人申請については、例年通りの8月31日を申請期限であることが確認された。年次報告、施設認定、個人申請についてのアナウンスを来週の頭に親施設の責任者宛てに配信する。
- ・専門医制度規約改定案が提示され、承認された。変更箇所は、以下の通りで、変更時期は4月1日の一般社団法人になってから承認が得られたとして進めることとした。

専門医制度施行細則第11条第2項の「研修医」を「専門研修医」に変更。

認定資格の申請期限に関する規定第2条第1項と第2項の「3月31日」を「5月31日」に変更。

- ・研修開始宣言について、あくまでも年次報告に登録が無ければ研修したことにならないことが確認され、また年次報告に登録されていても、研修開始宣言がされていないケースも考えられるので、研修開始宣言は最長1年半の遡りが可能とすることが決定した。
- ・新専門医制度において学術経験の学会への参加の単位については、いつから認めるのかを専門医認定委員会で検討の上、理事会に報告することとした。
- ・新年次報告システムの画面が確認され、進めることとなった。
- ・施設の申請書が確認され、外科学会の様式を参考にして作成されていることの説明があり、委員会で検討を行い、全施設にアナウンスすることとした。

2) 理事長報告（越永理事長）

(1) 第19回メール審議報告（小児難治性食道逆流症の現状に関する全国アンケート調

査について) について、全会一致にて承認されたことが報告された。

(2) 第20回メール審議報告(腹腔外発生デスマイド型線維腫症診療ガイドライン草案について) について、全会一致にて承認されたことが報告された。

(3) 第21回メール審議報告(他学会からの委嘱評議員制度について) について、全会一致にて承認されたことが報告された。

(4) 第22回メール審議報告(『研究発表に当たっての共通倫理ガイドライン』に対するアンケートについて) について、全会一致にて承認されたことが報告された。

(5) 日本製薬工業協会からの寄贈本「製薬協ニューズレターno.189」を受領した。

(6) 第57回日本小児歯科学会大会からの通信文「日本小児歯科学会大会のご案内」を受領した。

(7) 日本小児科医会からの寄贈本「日本小児科医会ニュースNo.66」を受領した。

(8) 日本小児科医会からの寄贈本「日本小児科医会ニュースNo.67」を受領した。

(9) 日本小児科医会からの寄贈本「日本小児科医会会報第55号」を受領した。

(10) 日本小児科医会からの寄贈本「日本小児科医会会報第56号」を受領した。

(11) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.360」を受領した。

(12) 日本医学会からの通信文「日本医学会シンポジウムの開催について」を受領した。

(13) 日本医学会からの通信文「第25回日本医学会公開フォーラムの開催について」を受領した。

(14) 外科関連学会協議会からの通信文「「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」への賛同について」を受領した。

(15) 日本医療安全調査機構からの通信文「一般・療養病棟における非侵襲的陽圧換気(NPPV)及び気管切開下陽圧換気(TPPV)に係る死亡事例の分析」を受領した。

(16) さいたま市からの通信文「さいたま医療ものづくりフォーラム 2019 名義使用報告書」を受領した。

(17) 日本医学会からの通信文「「広告が可能な医師等の専門性に関する資格名等について」の一部改正について(周知依頼)」を受領した。

(18) 日本医学会からの通信文「医師による異状死体の届出の徹底について(周知依頼)」を受領した。

(19) 日本医学会からの通信文「訪問診療等に使用する車両に係る駐車許可について(周知依頼)」を受領した。

(20) 慶應義塾長からの通信文「第24回慶應医学賞候補者推薦のお願い」を受領した。

(21) 日本外科学会専門医制度委員会からの通信文「第1回専門医制度における最低手術経験数WG議事録」を受領した。日本心臓血管外科から最低手術経験数の350例を減らしてほしいと要望が出ていたと報告された。

(22) 日本外科学会からの通信文「NCDデータを利用した複数領域にまたがる新規研究課題の申請の件」を受領した。

(23) 日本外科学会からの通信文「第1回外科医労働環境改善委員会議事録」を受領した。5年後を目途に時間外労働が960時間を超えてはいけなくなる時がきて、守れない場合は施設の責任者が逮捕される状況になるかもしれないという説明がされた。

(24) 日本小児科学会からの通信文「第188回四者協議事録」を受領した。

(25) 日本小児期外科系関連学会協議会からの通信文「第2回定時社員総会議事録案」を受領した。

(26) 第86回日本医学会定例評議員会資料を受領した。

3) 総合調整委員会報告（田尻委員長）

田尻委員長より資料に基づき、以下の点について報告があり、了承された。

- ・ 専門医制度関連・学会会員システムに関して
- ・ 学会主導で作るべきガイドラインがないか
- ・ 外科学会学術集会との演題調整について
- ・ 小児外科関連研究会の今後について
- ・ その他

4) 庶務委員会報告（藤野委員長）

藤野委員長より、資料に基づき報告がなされた。

2019年1月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,841名（うち海外3名）、評議員314名、名誉会員55名（うち海外7名）、特別会員69名（うち海外1名）の合計2,279名である。また、現在特定非営利活動法人の正会員は一般社団法人になってからも正会員として移行されることが確認された。

5) 財務会計委員会報告（浦尾補佐）

浦尾補佐より、資料に基づき、決算に係るスケジュールが報告された。来年度予算作成に際し、新規事業を各委員会に集めていること、来年度はNPOと一般社団法人の2つの予算案を作成することになることが報告された。

6) 各種委員会報告

(1) 機関誌委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(2) 国際・広報委員会（越永担当理事）

越永担当理事より資料に基づき、American Pediatric Surgery Association (APSA) から各学会の歴史についてポスターで発表してほしいと依頼があり、田附委員長に作成依頼し、完成したものを提出したことが報告された。

(3) 保険診療委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より資料に基づき、以下の点について報告があり、了承された。

- ・ 平成32年度診療報酬改定要望の進捗状況
- 3月に以下の要望書を外保連に提出予定  
(技術新設) (要望順位は番号の通りとした)



1. 胸骨挙上用固定具（ペクタスバー）抜去術（再要望）
2. 食道瘻造設術（再要望）
3. 腹腔鏡下脾固定術 ※脾固定術（開腹）は実態調査で症例なく、今回は見送った
4. スペーサー挿入手術

スペーサーは昨年 12 月に薬事承認が下りたが、適正使用指針策定を PMDA から要求されている。放射線腫瘍医、消化器外科医、小児外科医を委員とした協議会を開催する。小児外科医として、保険診療委員会の委員長 田中裕次郎と委員 神保教広の 2 名が参加する。

5. 会陰裂創縫合術（分娩時以外）  
（技術改正）

1. 腹腔鏡下胃瘻造設術の増点
  2. 新生児加算（手術）、乳幼児加算（処置）、乳幼児加算（検査）の追加
  3. 自動縫合器加算の追加（外保連試案で入っている術式）
- ・日本小児期外科系関連学会協議会（JAPSS）第 2 回定時社員総会（2019.2.7）  
平成 32 年度診療報酬改定について（川瀬委員長）  
6 月に要望書を保健局医療課へ JACHRI（日本小児総合医療施設協議会）と共同で提出することができる。JAPSS 各団体からは、要望を出していただき、委員会で調整して提出する。3 月を目途に各団体から提出して頂く。

#### （4）教育委員会（中岡委員長）

中岡委員長より資料に基づき、以下の点について報告があり、了承された。

- ・卒後教育セミナー、内視鏡手術セミナーともに、日時・場所・講師が決定し、現在テキスト作成中である。
- ・今回は第 1 日目の終了後に講師と受講生、受講生同士の交流を図るべく懇親会の開催を計画している。そのため、学会主催者に協力いただき、第 1 日目のセミナー開始時刻と終了時刻を例年よりも早める予定である。
- ・会告、および受講申し込み、懇親会参加申し込みの詳細は、現在ホームページ上で公開中であり、日本小児外科学会雑誌 55 巻 2 号に会告(第 3 報)が掲載される予定である。

#### （5）悪性腫瘍委員会（田尻担当理事）

田尻担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

#### （6）学術・先進医療検討委員会（臼井担当理事）

臼井担当理事より資料に基づき、以下の点について報告があり、了承された。

- ・先進医療及び学術的情報収集および会員への情報提供  
2018 年 1 月から 12 月に publish された systematic review の論文選定を行い、最終的な選定論文数は 54 編で、2019 年 3 月 8 日までに委員が文献を読み、要旨をまとめ

る予定で、昨年同様、5月の小児外科学会までには、HPへ掲載予定である。

・会員対象のアンケート調査依頼の審査

平成30年12月17日に、久留米大学小児外科 八木実・深堀優先生から審査依頼があった、「小児難治性食道逆流症の現状に関する全国アンケート調査」に関して、平成31年2月6日に理事会で承認され、通知した。なお、アンケート結果集計完了後、3ヶ月以内にそのまま本学会HPで公表できるような形式(pdf、PPT、ワード)で報告いただくよう併せて伝えた。

(7) 倫理・安全管理委員会（野田担当理事）

野田担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(8) データベース委員会（佐々木委員長）

佐々木委員長より資料に基づき、以下の点について報告があり、了承された。

- ・第56回日本小児外科学会学術集会におけるNCD・学会データを用いた臨床研究シンポジウムについては、演題名称をワークショップとして適切な名称に変更する。
- ・会員から学会保有データの利用申請があり、所定の申請書での手続きを依頼し、現在申請書待ちの状態である。
- ・NCDデータを利用した研究申請について、2019年度についても2018年度と同様に既存のデータに関する研究を4月1日～5月9日までを公募期間として公募を行う予定で、2019年度もデータ追加型研究の募集は行わない。

(9) 小児救急検討委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より資料に基づき、以下の点について報告があり、了承された。

- ・5月24日に「熱中症」と「アナフィラキシーショック」をテーマにした第9回小児救急セミナーを開催予定。
- ・PALS講習会について継続して参加を呼び掛ける。
- ・災害対策マニュアルの改訂や訓練について、初動について誰がどういうことをするのかを明確にする。

(10) トランジション検討委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(11) ワークライフバランス検討委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(12) 規約委員会（金森担当理事）

金森担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(13) 研究倫理委員会（野田担当理事）

野田担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(14) NCD 連絡委員会（臼井担当理事）

臼井担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(15) ガイドライン委員会（金森担当理事）

金森担当理事より資料に基づき、以下の点について報告があり、了承された。

- ・ 日本小児感染症学会から、「小児臓器移植および免疫不全状態児への予防接種ガイドライン」改訂に際して、作成委員の推薦依頼があり、当委員会で候補者を検討の上、提出した。
- ・ 日本整形外科学会から、「腹腔外発生デスマイド型線維腫症診療ガイドライン草案」について意見を求められ、委員会内で審議の上、提出した。
- ・ 新ガイドライン情報：ガイドライン検索班にてホームページ掲載候補をリストアップ中。

7) 次回定例理事会日程の確認（越永理事長）

次回理事会は令和元年5月22日（水）10：00～14：00 萃香園ホテル2F千歳の間にて開催することが確認された。

理事長 \_\_\_\_\_

理 事 \_\_\_\_\_

理 事 \_\_\_\_\_